

社会医療法人 清風会
法人だより

清風

夏号
2022年8月1日 vol.69



▲「瀬戸を眺めて」～極楽寺山山頂から～（撮影：渉外部門 塚本 修久）



社会医療法人 清風会



五日市記念病院・廿日市記念病院は
（公財）日本医療機能評価機構の認定病院です

社会医療法人清風会 第6期に向けて

— 人生100年時代に向けた当法人の今後の取り組み —

社会医療法人 清風会 理事長(五日市記念病院 院長) ^{むかだ} 向田 一敏



この7月で、五日市記念病院は開設31年、廿日市記念病院は22年を迎えました。新型コロナウイルス感染症のパンデミックが始まって、早2年半が過ぎようとしています。第6波がようやく減少し始めた矢先、第7波と思われる感染再拡大が発生してきており、油断できない状況が続いています。慢性的な閉塞感が続く中、当法人ではこの4月、看護師25名を含む多くの新入職者を迎え、新芽が息吹くすがすがしさを久々に感じる事が出来ました。

こうしてまた新たな1年に向かうことができますのも、皆さま方のご支援、ご協力のお蔭と感謝しています。厚く御礼申し上げます。

■ (1) 社会医療法人 清風会 第5期(2021年7月~2022年6月)を振り返って

当法人は7月から新たな法人事業期に入りましたが(社会医療法人第6期)、前第5期の1年間、当法人にとりましていくつかの重要な動きがありましたので、紹介させていただきます。

① 五日市記念病院

- 本年2月、脳卒中ケアユニット(SCU)4床を開設し、運用を開始しました。開設から5ヶ月が経過しますが、常時満床状態で超急性期～急性期の脳卒中患者さんの治療・管理にあたっています。
- 本年4月、脳血管内治療指導医である坂本繁幸医師が、脳血管内治療センター長として着任しました。これまで広島大学脳神経外科講師として、広島大学病院は勿論のこと、中国地方の広島大学関連病院で多数の脳血管内手術を行ってきた実績があります。昨年10月広島大学脳神経外科教授に就任されました堀江信貴教授のご高配により、広島西部地域の脳血管内治療を充実させるべく、当院へ赴任しました。それにより、最近のトピックスの一つであるフローダイバーターを用いて、より難易度の高い脳血管疾患に対する脳血管内治療が可能となりました。この地域の脳卒中センターとして、これまで行ってきた精緻な顕微鏡下直達術と脳血管内手術の双方を適切に選択して、患者さんにとってより有益な治療に繋げていきたいと考えています。

- 昨年4月に着任した内田一徳医師は、得意とする腹腔鏡を用いた胆石症やヘルニアに対する外科手術を五日市記念病院で9年振りに再開してくれました。昨年8月に第1例目の腹腔鏡手術を行って以降、コンスタントに手術を実施しています。現在、消化器・内視鏡外科として外来診療するとともに、内科と連携して消化器疾患の診断・治療や胃瘻造設などで積極的に診療しています。

② 廿日市記念病院

- 昨年1月、緩和ケア病棟施設長として着任した小原弘之医師は、日本緩和医療学会専門医としての卓越した技量と豊富な経験を以て、日々、多数の患者さんの診療にあたっています。
- 本年5月、五日市記念病院副院長であった茶木隆寛医師が、廿日市記念病院へ転任しました。回復期リハビリテーション病棟を中心として入院、外来診療を担当します。脳神経外科、並びに脳卒中専門医の見識の下、高柿尚始医師や吉屋智晴医師、高橋元医師と協力してリハビリ診療にあたっていますので、患者さんをご紹介頂きますよう宜しくお願いいたします。

③ 清風会看護部

- 本年4月清風会看護部長として、村中くるみ看護師が着任しました。法人の中で最も大所帯である両院の看護部を管理する、誠に重要なが大変な業務ですが、着任早々、東へ西へと日々奔走し、精力的に看護部の運営にあたっています。
- 一方、五日市記念病院開設以来、約30年間勤務してくれました前看護部長である安達貴枝看護師が、この7月を以て定年退職となりました。在任期間中、ご支援いただきました関係各位に感謝申し上げます。

■ (2) 社会医療法人 清風会 第6期(2022年7月~2023年6月)に向けて

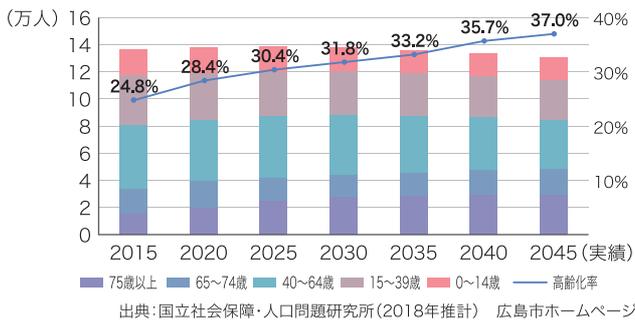
① 少子高齢化問題

さて、“2025年問題”が厚生労働行政より提起されて久しくなりますが、あと3年弱で2025年を迎えることとなります。

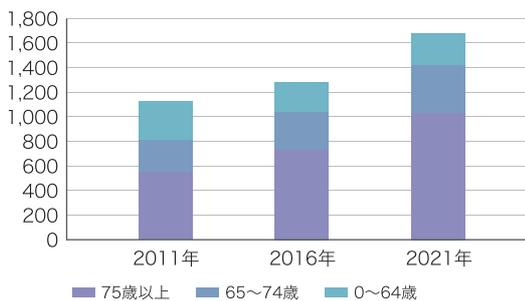
超高齢社会がもたらす社会保障費の増加により、社会保険料負担が増加してきていることは実感するところですが、我々の日常診療の中で高齢者が非常に増加してきたとの大きな変化は感じ取れません。人口変化は緩徐に進むため、5年、10年単位で統計を取っていないとその変化に気づかない盲点があります。

広島市佐伯区をみますと、総人口は2022年3月時点で約140,700人、それまでの増加傾向はみられなくなって横這いとなり、2025年辺りをピークとして減少に転じると予測されています。一方、65歳以上の老年人口は、2015年は約33,900人（総人口比24.8%）から、2020年には約37,500人（総人口比26.7%）へと増加しています。問題の2025年には約42,000人（30.4%）、2040年には約47,700人（35.7%）に増加する見込みで、特に75歳以上の後期高齢者の増加が著しく、当法人の医療圏である佐伯区周辺の広島市西区や廿日市市でも同様の状況になることが予測されています。因みに五日市記念病院の年齢別患者数の推移を調べてみますと、外来、入院ともにこの10年間で65歳以上の高齢者比率は格段に上昇していることがわかります。

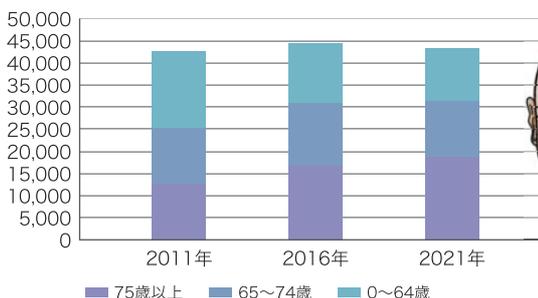
●佐伯区の将来推計（人口・高齢化率）



●入院 年齢別（五日市記念病院）



●外来 年齢別（五日市記念病院）



このように高齢化が進む中、2021年3月に報告された内閣府の調査結果（第9回高齢者の生活と意識に関する国際比較調査）をみますと、60歳以上の日本人1,367人に対して、“身体機能が低下した場合に住みたい所”を質問したところ、約60%の人々は“改修してでも自宅に留まりたい”との気持ちを表しています。一方で、高齢者住宅や老人ホームへの入居希望は約28%、病院への入院希望はたったの4%という結果でした。以上の結果より、高齢者個人の希望としては、できるだけ在宅生活を続けたいとの基本的な意思を持っておられる方が多いと言えます。それを成就するためには、自立、あるいはそれに準ずる状態をできるだけ長く維持してもらい、健康長寿への取り組みが大切といえます。

②地域の高齢化に対する当法人の今後の取り組み

高齢化に伴い脳卒中や心疾患などの血管疾患が増加することは既に予測されているところです。従って、脳卒中に対する救急・急性期対応から回復期に至るまでの当法人としての一貫した医療を今後さらに充実させるとともに、脳卒中の発症予防や再発予防についての取り組みも積極的に実施していく必要があることは言うまでもありません。既に、未破裂脳動脈瘤や無症候性頸部内頸動脈狭窄症に対する発症予防のための手術、脳卒中の原因となる心疾患や生活習慣病の管理を適切に行うなどの脳卒中発症予防の観点からの取り組みは継続的に行っています。そして、地域包括ケアシステムへの対応のひとつとして、2020年4月に五日市記念病院では地域包括ケア病床の導入を行いました。しかし、高齢化し、多少の身体障害があっても自宅での生活を希望する方々が多い状況を見ますと、病院で待ち受ける医療のみでは不足であり、地域に出向き、在宅における健康管理や身体機能維持などを行う維持期の医療にも、当法人として関わっていく必要性を強く感じます。廿日市記念病院では、既に2006年から介護保険下での通所リハビリ、訪問リハビリを開始しています。そして、本年4月には法人の臨床栄養管理科が主体となって栄養ケアステーションを開設し、地域へ出向いて、栄養指導や栄養相談などの“食の重要性”を啓蒙する活動を開始しました。更に、地域包括ケアシステム構築の一部となる広島市介護予防・日常生活支援総合事業：短期集中予防支援訪問サービスとして、訪問栄養指導も開始しました。今後、五日市記念病院においては、訪問看護、訪問リハビリ、廿日市記念病院においても訪問看護を開始するべく準備を進めたいと考えます。

健康長寿を延伸し、高齢者の希望も踏まえた医療・介護を提供していくことは、当法人の基本理念である“望まれる医療の実践”に合致したものです。その理念に沿ってかかりつけ医などの地域の医療機関や介護関連施設、行政との連携を一層密にして、地域包括ケアシステムの一翼を担えれば、と考えていますので、ご指導、ご協力いただきますよう宜しくお願い申し上げます。

今年も、 はや、半年を経過

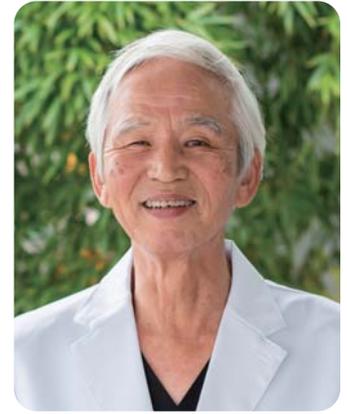
廿日市記念病院 院長 浅野 拓

6 月末、早々と梅雨明け宣言がなされ、猛暑開始となり、今後の水不足も深刻な事態となりそうです。温暖化のせいで、ラニーニャ現象による南太平洋の高気圧の北上が原因と言われ、“暑熱順化”ができないまま突入となると、熱中症のリスクが高くなるのが危惧されます。

2月のロシアのウクライナ侵攻に始まり、ロシア国営放送では自国を正当化するプロパガンダやSNSを介してフェイクニュースが流れるなど、世論を操作する情報の駆け巡りで何を信じるべきかで混乱する状況が続いており、そのため、ロシアへの経済対策により食料、エネルギー資源の価格上昇で全世界にインフレも広がり今後の生活も不安視されています。G7(来年5月は広島で開催)やNATOは、単なる経済の問題でなく、平和秩序の設置で民主主義陣営の結束が必須ではありますが、プーチン大統領の確執との埋め合わせは解決策や妥協点が見いだせず、ゼレンスキー大統領が年内の終戦(停戦)を目指してはいますが、長期戦となり今後の成り行きはどうなるのでしょうか。

一方、新型コロナはワクチン接種の普及などで、新規感染者や重症化率は減少傾向になり、諸外国では危機感も薄れ、マスク着用なしでの活気を取り戻しつつある様子がうかがえます。当法人にも4月からインドネシアの技能実習生(去年は入国できず)8名が来てくれ、総勢11名が介護部門で頑張ってくれています。

ところで、2月から電子カルテの更新(ベンダー変更)が大いなる能率化に期待をもって開始し、ようやく使い勝手がよくなるようになってきています。しかし病院へのサイバー攻撃(安価でマルウェアが感染閤サイトで販売されているという)に対し、ハッカー侵入の穴を防ぐべく、今まで以上にセキュリティ意識の向上、対策を講じる必要もあります。



最後になりますが、廿日市記念病院としては、回復期、療養、緩和病棟での市中病院とのスムーズな連携を強め西部地域の人々の要望に応える医療施設としてお気軽に相談して頂けることもお願いし、職員一同、暑い夏を頑張っ



▲外国人技能実習生仕事風景



▲外国人技能実習生1・2・3期生

副院長就任のご挨拶

廿日市記念病院 副院長 茶木 隆寛



皆さん、酷暑の中いかがお過ごしでしょうか。コロナも完全には落ち着かず、いつも以上に暑い夏です。クーラーをしっかりと効かせて乗り切ってください。

私は2022年5月より廿日市記念病院に転勤となり、廿日市記念病院の副院長として就任しました。清風会に入職させて頂いてから、その頃は五日市記念病院のみでしたが、五日市記念病院一筋に働いてまいりました。これまで廿日市記念病院で働いたことは一度もなく、時々会議で行く程度で、廿日市記念病院の内部も詳しく知らない状態でした。今回転勤となり、当初は廿日市記念病院内を一人で冒険してまわりました。今では何とか一人で目的の場所にたどり着くことが出来ます。寄る年波には勝てず、色々なところにガタが来ておりますが何とか働いております。これまで重ねてきた経験を何とか活かして廿日市記念病院のために少しでも貢献をしたいと思っております。

五日市記念病院では急性期の患者さんを少しと回復期リハビリの患者さんを両方担当していました。廿日市記念病院では回復期リハビリの患者さんを担当することになりました。実際の仕事内容には大きな変化はない状況です。しかし廿日市記念病院では色々な面で患者さんへの説明や患者さんに関する検討等を充実させており、五

日市記念病院よりもある面では勝っていると感じています。また廿日市記念病院には緩和病棟があります。門外漢ですが少しでも勉強させて頂きお役に立てればと考えています。今後も廿日市記念病院をよりよくして行く手助けが少しでも出来ればと思っております。

私は出身が昔の大野町で、現在は廿日市市に併合されています。自分の生まれた町がなくなってしまったことは少しさみしい気もしておりました。しかし今後は昔の大野町も含めた、廿日市市の医療に少しでも貢献できるように頑張りたいと思っております。

今後いつまで医師の仕事が続けて行けるかは判りませんが少しでも長く続けて行けるように精進したいと思います。

自宅が広島市内ですので通勤時間が増えると思いましたがバイパスを走る距離が増えて大きな変化はない状況です。今のところ少し早めに起きて五日市記念病院時代よりも早く到着しています。廿日市記念病院に転勤となった後も水曜日は五日市記念病院の外来を続けています。週に1回の五日市勤務は気分も変わり、ちょうど良い感じですよ。

皆さん今後とも宜しくお願いいたします。

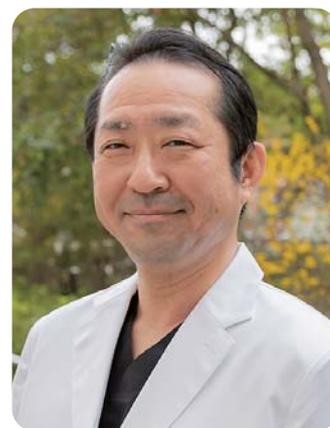


▲ふたば(アニマルセラピー犬)病室訪問



▲ふたば(アニマルセラピー犬)廿日市記念病院屋上庭園にてお遊び中

脳卒中・血管内治療 センター長就任の挨拶



脳卒中・血管内治療センター長 坂本 繁幸

2 022年4月より五日市記念病院に脳卒中・血管内治療センターが新設され、センター長に就任させていただきました、坂本繁幸と申します。

私は1997年に広島大学医学部を卒業し、脳血管内治療が日本で本格的に行われるようになったのは1990年代後半でしたので、幸運にも導入当初から脳血管内治療に携わることができました。医師として25年間が経過しましたが、前任地の広島大学病院には20年間在籍し、6年以上にわたり脳血管内治療チームを率いてきました。在籍時は広島大学病院のみならず、広島県・島根県の様々な関連病院で数多くの血管内治療を行い、これまでの血管内治療件数は3,000例を超えています。(迷ったときの医者選び広島診療科編 p82~83,南々社,2020で紹介)

今後は今までの治療経験を活かし、ここ五日市記念病院で佐伯区はじめ広島西部地区の皆さんのお役に立てるような医療が提供できるように一生懸命頑張ります。

●血管内治療(カテーテル治療)とは

血管内治療は、大腿部(足のつけね部分)や肘の動脈から、直径約2~3mmのカテーテル(管)を挿入し、さらにその中から直径0.5mmほどの「マイクロカテーテル」と呼ばれる非常に細い管を病変部に到達させ、コイル・ステントなどの様々な治療器具を使い、脳動脈瘤、頸動脈狭窄、急性期脳梗塞、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻といった脳の病気を、血管の中から治療する方法です。血管内治療は、頭や首を切開する開頭手術とは違って、傷が数mmだけのために、患者さんへの侵襲(肉体的な負担)が少ない治療であり、通常の手術では治療翌日から食事や歩行が可能で、治療後1週間程度で退院が可能です(緊急手術を除く)。特に最近では、治療器具の進歩、手技の向上や、様々なエビデンス(科学的根拠)により安全性・有効性が認められています。



●脳卒中・血管内治療センターの紹介

2022年4月より、当院に脳卒中・血管内治療センターが新設されました。脳卒中(脳血管障害)は、虚血性脳血管障害と出血性脳血管障害に大別されますが、当センターは、頸動脈狭窄症・急性期脳梗塞などの虚血性脳血管障害、および脳動脈瘤・脳動静脈奇形・硬膜動静脈瘻などの出血性脳血管障害を含めたすべての脳血管障害のみならず、鎖骨下動脈狭窄・腕頭動脈狭窄などの四肢血管障害、また血流豊富な脳腫瘍などの疾患を治療対象として扱っています。当センターでは、これらの疾患に対し、最新機種 of 島津製作所のパイプライン式血管造影装置Triniasを用いて血管内治療を行っております。また2023年度より日本脳神経血管内治療学会の研修施設になる予定です。

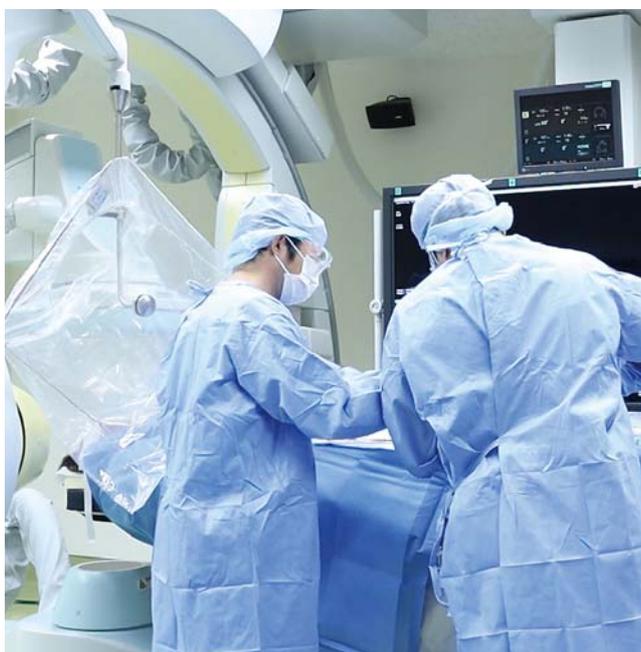
●当センターが治療する主な疾患

1) 脳動脈瘤:

小型・中型動脈瘤はもちろんのこと、難易度が高いとされる大型・巨大脳動脈瘤に対しても最新機器であるフローグライダー留置術(術者・施設限定)や複数ステント(一部術者限定)の組み合わせによるコイル塞栓術を行っています(手術時間:約1~2時間)。

2) 頸動脈狭窄症:

ステントを留置し狭窄部を拡張させる頸動脈ステント留置術を行っています。これまでの治療経験は1,200件以上と国内でも有数の治療経験を有し、治療成績を国際学術誌に多数報告しています(手術時間:約30分)。



3) 硬膜動静脈瘻:

従来からの病変静脈洞をコイルで閉塞する硬膜動静脈瘻塞栓術はもちろんのこと、病態によってはバルーンカテーテルを用いて正常静脈洞を温存した状態で液体塞栓物質であるONYX(術者限定)を用いてシャントを閉塞させる新たな手技を行っています。とくに軽症の場合、拍動性耳鳴りで発症することが多く、以前は治療困難でしたが、新しい手技により治療ができるようになりました(手術時間は症例により様々です)。

4) 急性期脳梗塞:

脳卒中治療ガイドライン2021において、行うように強く勧められている脳血栓回収術を行っています(手術時間:約30分)。

5) 脳動静脈奇形:

液体塞栓物質であるONYX(術者限定)・NBCAを用いた脳動静脈奇形塞栓術および集学的治療を行っています(手術時間は症例により様々です)。

6) 鎖骨下動脈狭窄症・腕頭動脈狭窄症:

収縮期血圧左右差(20mmHg以上)、労作時上肢脱力や脳梗塞で発見される四肢血管障害に対して、ステントを留置し狭窄部を拡張させる四肢血管ステント留置術を行っています(手術時間:約40分)。

7) 脳腫瘍:

血流豊富な脳腫瘍に対して、粒状・液体塞栓物質を用いて腫瘍栄養血管塞栓術を行っています(手術時間:約1時間)。

経歴

1970(昭和45)年9月26日生まれ

1997(平成9)年 広島大学 医学部 卒業

2002(平成14)年 広島大学 医員

2012(平成24)年 広島大学病院 助教

2018(平成30)年 広島大学病院 講師

2022(令和4)年 社会医療法人 清風会

現在に至る

指導医取得

●日本脳神経外科学会 指導医

●日本脳卒中学会 指導医

●日本脳神経血管内治療学会 指導医



統括看護部長 就任のご挨拶

清風会 看護部 統括看護部長 村中 くるみ



社 会の皆様から望まれる清風会であるために、私たちは温かく心のこもった看護を提供します。

2022年4月より清風会の統括看護部長に着任いたしました村中と申します。1991年7月の病院開設から31年目を迎える歴史ある清風会の、五日市記念病院・廿日市記念病院看護部の統括部長という重積に身の引き締まる思いがしております。

私は広島県立障害者リハビリテーションセンターや広島市立リハビリテーション病院での勤務経験のなかで、回復過程にある患者さんやご家族に寄り添う看護である、リハビリテーション看護に楽しさややりがいを感じておりました。振り返ってみますと40年近くリハビリテーション医療に携わっております。そのなかでも日本リハビリテーション看護学会の理事をさせていただいた経験は、全国に同じ志を持つ仲間を作ることができたり、日本の中でも先駆的な看護を実践しておられる施設に見学に行かせて頂いたり、著明な先生方のお考えを直に拝聴することができたりしたため、私自身看護師として大きく成長させて頂きました。また、広島市立リハビリテーション病院での看護管理者としての3年間は、初めての看護管理者経験だったため、周囲の方々に支えて頂いたおかげで職責を全うできたと思っております。

看護管理者の概念的定義は「看護管理者とは看護の対象者のニーズと看護職の知識・技術が合致するように計画し、財政的・物質的・人的資源を組織化し、目標に向けて看護職を導き、目標の達成度を評価することを役割とする者の総称をいう。」と、日本看護協会が定めております。具体的には看護部の課題を特定し、優先順位をつけ、組織化し、具体的な解決方法を実践し、評価していく看護管理過程の展開だと考えます。3年間の看護管理者としての経験は、物事を俯瞰して捉えること、本質を見極めること、和を似って貴しとなすことなど、私の価値観に影響したように思います。

4月からの清風会での勤務は不安ばかりでしたが、(偉大な)安達前看護部長から多大なるご支援をいただき、不安とは対照的に職員の皆様が本当に温かく迎えてくださったおかげで、何とか引き継ぎも無事に終わりました。今後、組織に貢献するための私の使命は、理念に掲げてある、社会の皆様から望まれる清風会であるために、温かく心のこもった看護を提供できる看護師を育成することです。そのために看護部の課題を特定し、前述した看護管理過程の展開を行っていきたく思っております。

現在、五日市記念病院は病院機能評価受審を受けております。着任して間がない未熟な私を支えてくれる職員のポテンシャルの高さに驚くとともに、サーベイヤーの言葉を真摯に受け、質の高い医療を提供するために対応する職員の誠実さに頭が下がる思いでおります。その中でサーベイヤーから看護部の課題を聞かれ、訪問看護の開始を課題の一つとして答えました。現在、在宅ケアの対象者が急増し、医療ニーズの高い利用者が増えています。さらに一人暮らしや高齢者世帯、老老介護、認知症看護など地域での訪問看護のニーズも多様化しています。人生の最終段階を在宅で迎えたいと望む方も多くおられます。すでに多くの医療従事者の方々が在宅療養を支えておられる中、知識や経験のない当院の看護師が地域の皆様信頼していただける訪問看護を提供できるまでには、まだまだ課題があり時間がかかると思いますが、皆様のご助言やお力をいただき、一つ一つ経験として蓄積していき、今まで以上に地域の皆様から必要といただける病院になれるように務めて参りたいと思っております。

今後とも引き続き皆様のご指導とご支援をいただきますようお願い申し上げます。



開設30周年記念 動画制作について

動画は
こちらから



五日市記念病院 事務部 青木 昭雄

2021年7月1日で五日市記念病院は、開設30周年を迎えました。

記念事業として、講演会開催なども計画していましたが、新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、未だ開催出来ていません。

その中で、30周年記念動画制作も記念事業の一つとして2021年年初より取り組んでいましたが、こちらも感染症が蔓延する中、撮影スケジュールが何度も延び延びになり、ようやく完成することが出来ました。

今回の記念動画は、当院開設の理念・精神を次世代の職員に繋いでいきたいという思いと、これまでの病院・法人の歩みや、現在、取り組んでいる当院の医療を職員はもとより、患者さんや地域の方々に広く知っていただきたいという思いから、『五日市記念病院 ～地域の安心を目指した30年～』というテーマで制作しました。

動画で取り上げたのは、各部署の第一線で活躍している中堅職員(30歳前後?)を中心に、当院での仕事ぶりを紹介しています。

また、当院開設の思いや経緯について前理事長の梶原四郎相談役に、当院の現在の地域医療への取り組み及び将来展望について向田一敏理事長兼院長に、テレビやラジオで活躍されているフリーアナウンサーの桑原しおりさんにインタビューしていただきました。

約15分の動画ですが、理事長、相談役や各職員たちの熱い思いが伝わると思いますので、下記のQRコードもしくは病院ホームページから、是非、ご覧いただけると幸いです。

また、昨年末に当院脳神経外科特別顧問に就任された上山博康先生の紹介動画及び本年4月に開設した脳卒中・血管内治療センターの紹介動画も制作中です。

脳卒中・血管内治療センターの紹介動画には、広島大学脳神経外科学 教授 堀江信貴先生にご出演頂きました。紙面を借りてお礼申し上げます。

どちらも近日中に公開予定ですので、合わせてご覧ください。



02 | 新入職員研修

清風TOPICS



五日市記念病院 技術科 臨床栄養管理科 竹岡 圭海

今回の新入職員研修では、清風会の理念や、各病棟の特徴、社会人としてのマナーなどについて学ぶことが出来ました。研修前は、これからの生活に不安と緊張ばかりでしたが、他職種の同期の皆さんと3日間を過ごし、新社会人として同時にスタートしていく中で抱えている不安や期待を共有することが出来ました。また、社会に出ることの意味、医療

人としての心構えなどを考えるきっかけにもなりました。自分自身の行動には責任が伴うということを頭に置きながら、一歩ずつでも成長していけるよう日々努力していこうと思います。これからも、自分“らしさ”を大切に、清風会病院の一員として地域医療に貢献出来るよう精進していきます。

五日市記念病院 技術科 臨床薬剤科 木峰 諒

3日間の研修を通して、清風会の病院として地域における役割、院内でのマナーなどについてご教授いただきました。その中で、学生と社会人の違い、個人情報の取り扱いに関する規則など、医療者が得ることの出来る情報の取り扱いの重大さ、責任について学びました。

私は学生実習を五日市記念病院で行っているのですが、

医療に関わる社会人となった自分に何が出来るのかを考え、患者さんにどのような医療を提供するべきか、望まれる医療とはどのようなことなのかをより深く考える機会となりました。

病院の役割や社会人としての責任を学ぶとともに、社会人として歩み出していることを実感する研修でした。

五日市記念病院 技術科 画像診断技術科 松川 亮太

「自分のために働く、ということは自らの道と選んだ医療従事者としての本分を全うすることであり、結果として患者本位の医療となる。」とのお話がありました。3日間に渡る新入職員研修の中でこのお話が私の中で大変印象に残っています。新入職員研修を通じて、社会人、医療従事者、そして清風会の一員としての心構えを諸先生方よりご指導いた

だきました。研修内容は社会人としての経験の有無に関係なく、一人の従事者としての職務を全うする上で非常に大切なものであると私は考えております。コロナ禍での入職のため、今までとは異なる形でのスタートではありますが、研修内容を胸に日々の業務に誠心誠意取り組んで参ります。

五日市記念病院 事務部 診療情報管理課 高村 陽

入職式に出席するまで、不安と緊張しかありませんでしたが、社会人としての一歩が始まるということを実感しました。研修では、清風会、五日市記念病院、廿日市記念病院についてや病床の説明があり、それぞれの病院の役割、病床の役割を知ることが出来ました。また、新型コロナウイルスだけでなく、色々なウイルスのお話も聞き、感染対策がいかに

に大切かということ学びました。2分間の自己紹介の時間では、緊張しましたが、無事に終わることが出来て良かったです。また、同期と話することが出来、他職種との交流を深めることが出来ました。これからの業務にこの研修で学んだことを活かして頑張っていきたいと思います。

廿日市記念病院 看護部 看護科 松永 彩那

1ヶ月半の新入職員研修の中に、看護部は7病棟を3日間ずつ経験するローテーション研修がありました。この研修は、コロナ禍で臨地実習にいけなかった私達にとって多くの学びある研修となりました。看護師の1日の動きや役割を間近で経験するなかで、病院の機能についても理解を深めることが出来ました。また、患者さんと直接関わっていく中

で、看護師としての実感も湧き、緊張もほぐれ、自分がどのような看護に興味があるのか、どのような看護師になりたいのかを明確にすることも出来ました。現在、希望した医療療養病棟で日々看護に取り組んでいます。先輩に見守られながら同期と切磋琢磨しあい頑張っていきます。

廿日市記念病院 技術部 リハビリ技術科 島根 利佳

安芸グランドホテルにて、3日間の新入職員研修に参加しました。社会医療法人清風会が地域にとってどのような存在であるか、大切にしている概念を説明していただき、職員の一員としての自覚が芽生えました。現場配属になる前に病院の説明や現場の声を直接聞くことが出来、大変貴重な場であったと感じています。副看護部長のお話の中で、こ

れまで経験してきた苦労や学び、大切にしてきたことなどの具体的なエピソードがとても印象に残っています。私も技術と知識を増やしながら日々患者さんに接していきたいと思います。また、今回の研修で他職種の同期と一堂に会することが出来たのも、貴重な機会となりました。



03 | 医療情報システムの更新

清風 TOPICS

情報管理室
管理本部 企画・IT部門 鋳物 俊徳

プロジェクト発足

2022年2月に第三期医療情報システムを更新致しました。

この度は、ソフト、ハード、ベンダ変更の可能性、インフラ再整備等、大規模な更新となるため、医師1名、診療情報管理士2名、医療情報技師2名からなる「清風会 情報管理室」を立ち上げ、室主導のもと両病院から担当を選出し24名で構成された「医療情報システム更新検討プロジェクト(以下、「検討PJ」)」を中心に2020年7月より検討が始まりました。

	第一期	第二期	第三期	第三、一期
カルテベンダ	ソフトマックス		ソフトウェアサービス	
構成	電子カルテ・オーダ	カルテ相互参照	患者ID統一	診療情報統合
五日市記念病院	2007年07月	2014年11月	2022年02月	2022年12月予定
廿日市記念病院	—	2015年01月		
データ形態	1サーバ1DB	2サーバ2DB	1サーバ2DB	1サーバ1DB

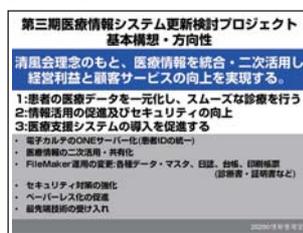
仕様とベンダ選定

検討PJでは、現状の課題と問題点の抽出、下記の検討を行いました。

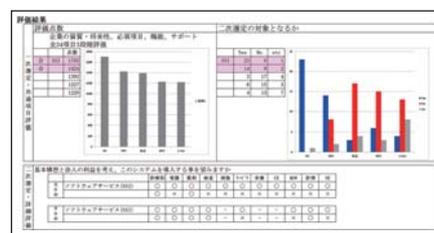
- 基本構想(方向性)
- 仕様書、システム構成図
- 一次・二次選定評価項目

一次・二次・最終選定で5社から1社に決める必要があり、適正かつ公正に評価するため数値化し視覚的に選定できるよう努めました。

【基本構想】



【数値化した評価】



ベンダ決定と稼働

検討PJ及び情報管理室を中心に検討した結果、ベンダ変更による作業やデータの移行費用を考慮しても、基本構想や理念に沿い将来を託せるシステムは、ソフトウェアサービス社の「Newton's 2」が相応しいと判断して理事会に諮りました。

ベンダ決定後、日常業務に加え更新対応の負担は大きく、組織再編成が急務となり、企画部門、SEの3名からなる管理本部 企画・IT部門が誕生しました。新たな体制で価格交渉や機器選定、インフラ構築と検討PJから引き継いだ導入プロジェクト(61名)を発足し、診療やID統一等様々なワーキングや委員会での打合せを同時並行しました。

導入フェーズ中もコロナの影響は大きく、ベンダ常駐の延期・人数制限・来院時検査・オンライン打合せ、430台の端末・iPhone55台の調達、サーバ本体は納期不明のまま年を越し、あわや稼働日を延期する瀬戸際に搬入となり、骨が折れたのは言うまでもありません。

ベンダ変更に伴う更新は1日稼働が必須のため前日の月曜午後から休診とし、以降はシステム停止となり、電子カルテ・部門システム・医事システムの更新と接続、データの最終移行、端末展開を一齐に行いました。合計4回の模擬と操作練習で迎えた当日は、多少待ち時間が長くなったものの、予約数や救急の制限とスタッフの増員で大きな障害も無く稼働できました。

今後の課題

全日本病院協会が提唱する「病院情報化の発展段階」の、第4段階:医療機関相互の情報共有(地域連携)、第5段階:医療関係組織相互の情報共有(機関連携・機関ネットワーク)を目指し、まずは法人内「診療情報の統合」を構築する予定です。

また、見読性に優れた診療情報の標準化が急務となる他、セキュリティの向上、大規模災害時のBCP策定を中心に取り組みます。

最後に

システムへの投資は年々高まる一方です。便利な機能も使わなければ無駄になりますし、設定や打合せが不十分だと逆に足を引っ張られます。限られた時間の中で検討・決定する事項が大量にあり、課題と費用を天秤にかけざるをえず、その為には関係者との調整が重要になります。

システム更新の記事は珍しくはないですが、担当者不足とも聞いておりますので、少しでもお役に立てれば幸いです。

運用に関しては不慣れな点も多く、関係各所、協力企業、十分な作業場所が確保できず、禍中の様々な制約があるなか尽力頂いたソフトウェアサービス様には、この場を借りて感謝申し上げます。

地域密着型

五日市記念病院 認定栄養ケア・ステーション

技術部 臨床栄養管理科

「認定栄養ケア・ステーション」は、地域の皆さんの毎日の食・栄養について管理栄養士から直接的にサポートを受けることが出来る地域密着型の拠点として、日本栄養士会から認定されている施設のことです。栄養ケア・ステーションは、全国の都道府県に356ヶ所設置されています。(2021年4月1日現在)

現在、広島県内で認定を受けている「認定栄養ケア・ステーション」は9事業所あり、今年4月に医療機関では当院が初の認定を受けました。



■ サービス内容

栄養相談

- 退院後の食事が心配
- 何をどのくらい食べたら良い?
- 栄養状態が心配
- 子供の成長が心配(離乳食に関する事など)
- 食欲がない時の工夫

など食事の事なら何でも

レシピや献立の提案

～疾患に応じた献立を作成します～

- バランスの良い献立を教えてください
- 糖尿病食の献立を作ってください
- ダイエット食の献立を作成してほしい
- 施設で献立作成にお困りの方

栄養計算

- 栄養の過不足を知るため、カロリーを計算してほしい
- 飲食店や販売業者の栄養成分表示の計算



セミナー・研修会への講師

- 公民館やサロンでの介護予防教室
- 企業や自治体向けの健康講座

訪問栄養指導

- 広島市短期集中予防支援訪問サービス

(各サービスの料金は、事業所ごとに異なりますので、直接お問い合わせください)

当法人では、「認定栄養ケア・ステーション」に登録している管理栄養士が5名おり、日頃は病棟や外来業務を行い、患者さんの栄養管理に努めております。病院を受診されていない小さな子供さんから高齢の方々が元氣な暮らしが出来るよう、私たち管理栄養士が「食」の支援をさせていただきます。

お気軽にご相談ください。(診療報酬や介護保険は適用外となっております)



2022年8月より訪問看護を行います。

看護部 村中 くるみ

近年、地域包括ケアの体制構築のため、在宅医療を支える訪問看護の需要が高まっています。

当院でも、回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病棟から退院する患者さんやご家族を地域で継続して支えるために、訪問看護の体制を整えます。入院中に身近な存在であった看護職員が在宅生活を支えるため、より個別的な支援を行うことが出来ます。

看護師にも自律的な判断力や連携調整力・マネジメント力が求められますが、なにより、自分の家に帰って元気になる患者さんにパワーをもらって、自己成長の機会にしたいと思います。

訪問看護とは

看護師などが自宅を訪問して、主治医の指示や連携により行う看護(療養上の世話または必要な診療の補助)です。病気や障害があっても、医療機器を使用しながらでも、自宅で最後まで暮らせるように多職種と協働しながら療養生活を支援します。

当院の訪問看護の内容

- 健康状態のアセスメント
- 日常生活の支援
- 心理的な支援
- 家族等介護者の相談・助言
- 医療的ケア
- 病状悪化の防止(予防的看護)
- 入退院時の支援
- 社会資源の活用支援
- 認知症者の看護
- リハビリテーション看護など



▲ 薬の確認

訪問看護提供までの流れ

訪問看護を必要とされている患者さんについてのサービス内容を、患者・家族、医師、看護師、ケアマネージャー等多職種と調整します。

患者さん・家族に訪問看護に関する説明を行います。

患者さんと契約を結びます。

訪問看護に伺います。

訪問看護提供について

- 医療保険・介護保険を利用した訪問看護を行います。
- 曜日：平日の月曜日から金曜日まで
- 利用時間：9時から16時
- 利用頻度：個別の相談になります。

(時間外のサービス提供はありませんが、電話での相談に応じます。当院では、脳神経外科系・内科系・外科系の時間外救急診療を行っております。緊急時には当院受診をお勧めします。)

訪問看護に関するお問い合わせ先：(082)924-2211 清風会 看護部 村中

地域包括支援センター はつかいち東部への派遣

地域包括支援センターはつかいち東部 保健師 秋田 香織

2022年4月1日から地域包括支援センターはつかいち東部に保健師として出向となりました。

甘日市市では、重層的支援体制の整備が進められています。重層的支援体制とは、高齢者と障害者の生活課題を同時に抱えたり、8050問題のような高齢者と引きこもり問題、ヤングケアラーのような高齢者・障害者と児童の問題など、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する市町村の包括的な支援体制を構築していくことです。そのために様々な部署が協力しながら地域住民を支えていく体制が必要となっています。

地域包括支援センターは、住民の介護予防や相談・支援、虐待防止、権利擁護のほか、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域住民や関係機関と連携し、様々な支援を総合的に行うところです。総合相談支援事業では、包括支援センターの事業を展開する基盤的機能を果たしています。主任介護支援専門員、社会福祉士、保健師といった3職種が配置されており、各職員が専門性を発揮しながら、課題を抱えた65歳以上の高齢者を発見し、包括支援センターへつなげ、適切な支援の展開を可能にするのが包括支援センターの役割です。

地域包括支援センターはつかいち東部は、社会福祉法人西中国キリスト教社会事業団が甘日市市から委託されています。9名の職員と一緒に東部地域の利用者さんや地域住民の方々への情報提供や支援を行っています。私を含め、3名が初めて包括支援センターに入り、4月から委託となったことで、利用者さんとの契約の取り直しや、担当変更のご挨拶等に伺ったりと多忙な中、包括支援センターの先輩方からたくさんの支援を受けながら日々勉強させて頂いています。医療機関から受診に来ないと連絡があって確認のため自宅を訪問したり、家族が認知症で困っている、近所の人のことで困っている、癌の終末期で残りの人生をどう過ごすのか悩んでいるなど、相談は様々です。短い時間の相談や支援であっても少し気が楽になった、安心したと言って頂けるととてもやりがいを感じます。また、一緒に働く保健師とともに100歳体操やサロンでの出前講座も行ってい

ます。地域住民の健康づくりや地域住民で支えあいながら健康状態を向上させることが保健師の役割です。

3月までは回復期リハビリテーション病棟で看護師として勤務し、患者さんが自宅でどのように生活するのか想像しながら退院支援を行ってきました。包括支援センターに出向してすぐに当院へ入院されていた患者さんが、介護保険を利用してリハビリを継続されていることを知りました。介護保険サービスの時間以外にも毎朝杖で散歩しながらリハビリを続けられている姿を見ることが出来ました。入院中に退院後の生活を予測してリハビリを行っていても、自宅に帰れば想像以上に大変だと言われる方が多いです。回復期病棟に入院中、患者さんの潜在能力を引き出したり、つらいことをどう乗り越えるのか一緒に考えていく周囲のサポートがあることを伝え、自宅で安心できるように物理的環境面だけではなく、人的環境も整えて送り出すことが、回復期リハビリテーション病棟の仕事だと改めて感じています。退院後、自宅の中だけで生活するのではなく、近所の方々とお話をしたり、地域のサロンに出かけたりすることなどを目標に退院支援をしていくことが必要です。

清風会に戻った時には、在宅での支援を病院で活かすことが出来るように、包括支援センターでたくさん在宅支援のことを学んで帰りたいと思います。



▲ 地域包括支援センターはつかいち東部 職員一同

五日市記念病院 統計情報

手術実施件数 (2021年1月～12月)

総手術件数: 298件 (2020年: 244件)

予定手術: 197件	緊急手術: 101件
全身麻酔: 101件	局所麻酔: 126件

脳神経外科は、脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など)、頭部外傷、脊椎疾患(脊椎ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など)、脳腫瘍(下垂体腫瘍を含む)、水頭症、顔面けいれんなど多彩な疾患に対応し、緊急手術も行っています。

脳動脈瘤: 脳卒中治療ガイドラインに準じて、開頭手術・血管内手術の双方の治療を実施しています。2021(令和3)年は脳動脈瘤頸部クリッピングが増加しました。

脳梗塞: 発症4.5時間以内であれば、血栓溶解療法(t-PA静注療法)を検討します。2021(令和3)年には9件で投与しました。場合によっては、発症8時間以内であれば血管内手術(カテーテルによる血栓回収術、内頸動脈ステント留置術やバイパス手術)も併用しています。

外科手術は、昨年(2021年)9年ぶりに再開し、8月に第1例目の腹腔鏡手術を行って以降、ヘルニア、胆嚢摘出術を中心に手術を実施しています。



手術名	件数
脳動脈瘤クリッピング術(破裂8、未破裂32)	40
脳動脈瘤トラッピング術	2
脳動脈瘤ラッピング術	1
脳腫瘍摘出術	7
内視鏡下経鼻的下垂体腫瘍摘出術	1
バイパス術	1
脳室ドレナージ術	9
開頭血腫除去術	16
慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	49
シャント術	6
微小血管減圧術(顔面痙攣2、三叉神経痛1)	3
頸動脈内膜剥離術(CEA)	39
小計	174

●血管内手術

手術名	件数
脳動脈瘤コイル塞栓術	4
経皮的血管拡張術	3
頸動脈ステント留置術(CAS)	37
急性期血行再建術	14
AVF塞栓術	3
小計	61

●脊椎 末梢神経

手術名	件数
脊椎固定術(前方5、後方6)	11
椎弓切除術	12
椎弓形成術	3
椎間板摘出術	3
経皮的椎体形成術	2
神経剥離術	3
手根管開放術	5
小計	39

●外科

手術名	件数
腹腔鏡下鼠径ヘルニア手術	7
腹腔鏡下胆嚢摘出術	5
腹腔鏡下虫垂切除術	1
肛門周囲膿瘍切開術	1
陥入爪手術	1
中心静脈注射用植込型カテーテル設置	1
皮膚切開術	1
小計	17

●その他

手術名	件数
その他の手術	7

合計	298
----	-----

当院の治療: 必要に応じて広島大学の専門医師とも相談し、共に治療に当たることがあります。

急性期血行再建術実施件数 (2011～2021年)

急性期血行再建術は発症早期の主幹動脈閉塞症に対してカテーテルを用いて血流を再開させ、脳梗塞の発症を抑える手術で、当院でも積極的に行うようにしています。

五日市記念病院は急性期脳卒中に対応する施設として、救急隊との連携を含め今後も情報提供を続けて参ります。



急性期血行再建術件数の推移 (対象年:1～12月)

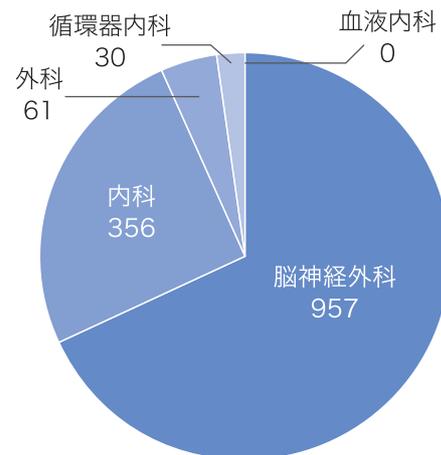


救急搬入者数 (2021年1月～12月)

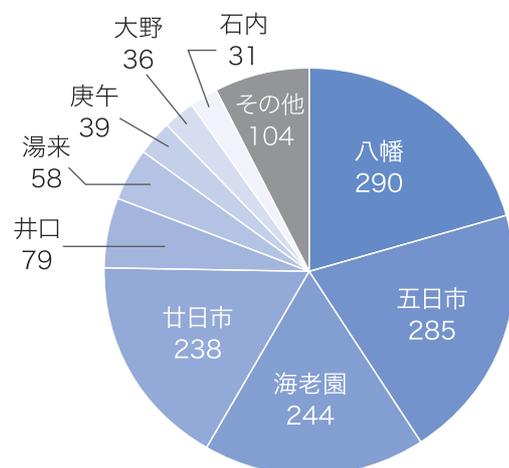
分隊名		救急搬入数
佐伯区	五日市	285
	八幡	290
	海老園	244
	湯来	58
	石内	31
周辺地区	廿日市	238
	大野	36
	大竹	8
	宮島	7
	井口	79
	己斐	5
	庚午	39
	三篠	5
	都	8
	その他	白島
基町		4
江波		10
大手町		3
光		3
戸坂		1
段原		4
青崎		2
宇品		2
沼田		16
祇園		2
上安		3
佐東		4
安佐		1
安芸太田		4
可部		0
府中		1
海田		1
その他		9
計		1,404

(2020年:1,204件)

診療科別搬入数



救急分隊別搬入数



アドバンスケアプランニング (ACP) に関する最近の話題

緩和ケア病棟 施設長 小原 弘之



2022年7月に第27回日本緩和医療学会が神戸で入場制限なしで3年ぶりに対面開催され、参加してきた。この約2年あまりの新型コロナ感染のパンデミックで、医療分野の学会活動は大きく様変わりをして、web会議でモニターの画面越しに議論した全国の仲間と直接話しをすることがこんなにも満足度の高い幸せな時間であることかと痛感する貴重な機会となった。全国の医療者が制限なく、今までの診療や日常に戻る日が来ることを願い、感謝しながら参加発表させて頂いた。

今回は緩和医療に関する様々なトピックスや話題が発表され、熱心な議論が交わされた。その中で、聖隷三方原病院の森雅紀先生の「ACPのエビデンスとアンチテーゼ」の演題は質の高い素晴らしい講演であった。森先生はACPの領域では、ご自身の研究だけでなく、教科書の執筆もされており、1980年代からの事前指示 (AD) から、アドバンスケアプランニング (ACP) が重要視されるようになった経緯、現在その分野のエキスパートから提唱されている問題点を紹介されていた。

従来のACPIは「もし意識不明になったら?」とか「もし重度の認知症になったら?」など「意思表示が出来なくなった時のこと」を患者、家族、医療者で話し合うことを指していたが、最近「今とは違う健康状態になった時のこと」として「もし抗がん剤が効かなくなったら?」など広義のACPも論じられるようになってきている。入院中に「外出する」とか、「温泉旅行に行くか?」などもACPとして議論されたりすることもあり、「今」の希望がACPと一緒に議論されている。「今」のニーズに応えることは、本来は緩和領域では通常の診療に含まれる内容であり、ACPの議論が必要以上に拡大解釈されていることに困惑することも経験する。

また最近自らが経験した事例から、「relational autonomy」の概念を学んだ。欧米では個人の判断や価値観、自律性 (autonomy) が優先されるが、日本を含むアジア圏では、家族中心の意思決定が重要視されることが多い。

当方の事例は、検診で胸部異常影を指摘されて肺がんの疑いがあったが、高齢であったため精査を希望せずに腰痛が増強して、疼痛管理を依頼されて相談された。CTで胸水貯留と胸椎転移があり、疼痛治療で放射線照射の適応と考えて、放射線治療と胸膜癒着術を受けて頂いた。胸水と血清の検体からEGFR遺伝子変異陽性と判明して、担当医は標準治療であるGefitinibの治療を勧めていた。本人、配偶者、同居の家族は、抗がん治療を希望されなかったが、医療者であった遠方在住の家族は強く治療を受けることを希望して、最終的に治療を受けることになった。本例はGefitinibによる間質性肺炎を併発して、期待通りの効果が得られずお亡くなりになったこともあり、がん治療を勧めたことが、本人の希望に反していたことから倫理的な観点から治療方針の決定のプロセスを学術的に検証した。

「relational autonomy」は関係依存的自立と訳されることが多いが、まだ概念や定義は定まっていない。自己決定に過度に不介入を強調する傾向を疑問視する文脈で使用されるようになったのが始まりとされている。主治医は、対面で本人の希望、意見が分かれた家族間の希望を聴きながら、肺がん治療の専門家としての意見を伝え、家族内での意思決定を促すように関わっていた。医師はそれぞれの立場を尊重しながら、自分の意見を偏りなく伝えることが重要である。今回、その関わりを後方視的に分析して、治療を行った時に期待出来る結果だけでなく、行わない選択肢の提示やその結果で予測されることなども総合的に説明しており、その手続き上は問題ないと判断した。このように医療者と本人、家族間で希望が異なることは医療の現場ではよく遭遇するエピソードであり、立場を超えて個人の価値感を共有し尊重しながら、偏りのない意思決定を支援していくスタンスが改めて重要であることに気づかされる貴重な機会になった。

ACPは緩和の領域で関心の高いテーマで、新しい取り組みや概念が次々に生まれており、現場で役に立つ最新の医療情報やトレンドを常に収集する姿勢を持っていきたい。





緩和ケア音楽会

緩和ケア病棟 坂本 真理子
(臨床心理士&公認心理師)



▲ ギタリスト 上垣内 寿光さん

緩和ケア病棟で久々に開催されました「音楽会」についてご紹介します。

コロナ禍の現状では中止になっておりますが、当病棟においては、通常ならば月1回、第四水曜日または土曜日の午後2時から2時半まで、談話室におきまして「病棟お茶会&ミニコンサート」を開催しております。「緩和ケア病棟」という病棟としての特徴もあり、季節に応じた様々なイベントとともに、この「お茶会&ミニコンサート」は、患者さん、ご家族、そして病棟スタッフにとりましても、大きな楽しみと安らぎの場となっています。

まず、2022(令和4)年1月に開催されました「お年玉ギターコンサート」についてご紹介します。この日は、新型コロナウイルス感染症によりほぼ2年間中断していた病棟でのコンサートが再開された記念すべき日となりました。向田理事長のご縁により、国内のみならず国際的にも幅広く音楽活動を展開されているプロの演奏家、ギタリストの上垣内寿光さんをお迎えしました。当日は管理本部からの援助により、病棟ロビー前に立派なステージも設置し、2時から3時まで、患者さんにご家族、そして病棟スタッフが、密にならないように距離をとりながら席をとり、久々に病棟に響き渡る生のギターの音色をたっぷりと楽しみました。演奏曲目は、「禁じられた遊び」、「アルハンブラの想い出」から、患者さんたちにも馴染みの深い日本の「赤とんぼ」、「川の流れるように」、そして、上垣内さんのオリジナル曲へと続けました。私は、当

日司会をさせていただいたのですが、久々のコンサートに、ステージの横で間近に演奏を聴きながら、“こんな日があったんだ”と、懐かしいような、不思議な、泣きたくするような感慨にとられました。当たり前の日常が失われてから長い時間が経過し、忘れかけていたような、諦めかけていた、硬くしぼんでいたところと身体が、優しい音色に、少しずつ溶け放たれていくような感慨を覚えました。それは、私だけではなかったようです。当日感じた、この病棟に流れた穏やかな空気感を私は忘れることが出来ません。

4月には、上垣内さんからのご紹介により、「デュオ・ルピナスコンサート」という「マリンバとオーボエによるコンサート」も開催することが出来ました。

気持ちのいい春の昼下がり、再度、病棟2階受付前ロビーにステージを設置し、マリンバ奏者の向井沙世さん、オーボエ奏者の岩崎香保さんをお迎えしました。病棟にぱっと花が開いたようなお二人の演奏に、みなさんの表情も華やぎ、病棟全体が笑顔に包まれていきました。

コロナによる感染状況も、まだまだ落ち着いたとは言い切れないなか、多くの方のご尽力とご支援により開催出来た音楽会に本当に感謝しております。これらのコンサートにおいては、患者さんにご家族が、病棟に響く生の演奏に、“忘れていた時間が帰ってきました”、と一緒に時間を過ごしたみんなのところが一つになるような素敵な時間でした。何かと気持ちの落ち着かない昨今ですが、また少し前を向いて、今という時間を大切にしていこうという勇気と励ましをいただいた一時でした。

緩和ケア病棟においては、こういった「お茶会&ミニコンサート」、「各種季節のイベント」、さらに「家族サロン」と、病棟の特色に応じた行事がたくさんございます。それぞれの行事においては、病棟スタッフがそれぞれの多彩な才能を発揮して、患者さん、そしてご家族のお一人お一人の時間が輝くような取り組みを行っております。多忙な業務のなかでより良いチームワークを試行錯誤しながら、これからもスタッフ一人一人が笑顔を忘れず進んでいきたいと思っています。



▲ 左:緩和ケア病棟 小原施設長、真中:上垣内 寿光さん、右:向田理事長

廿日市記念病院 地域医療連携室からのご紹介

退院後のフォローアップ 各事業所との連携



回復期病棟退院患者さんの退院後のフォローアップとして、居宅介護支援事業所や地域包括支援センターにご協力頂き、1ヶ月後の状態、状況に関して書面での確認を実施しています。退院患者さんの内、介護サービスを利用されている方に限りますが、退院後の生活状況を知る機会になっています。

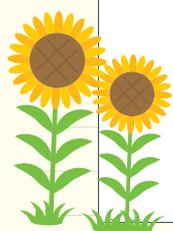
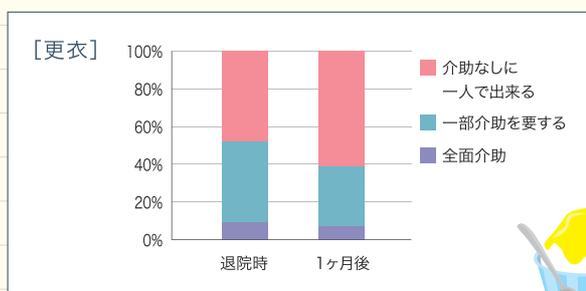
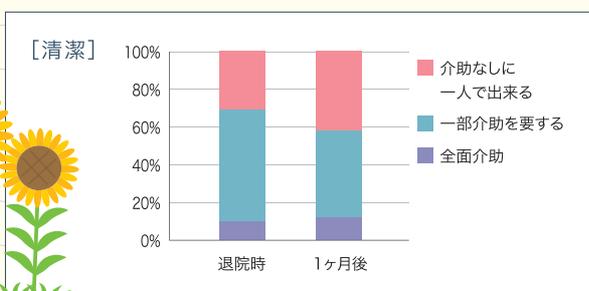
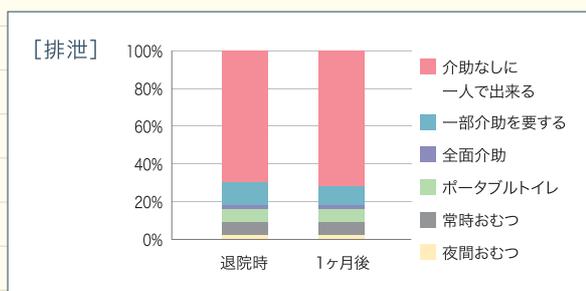
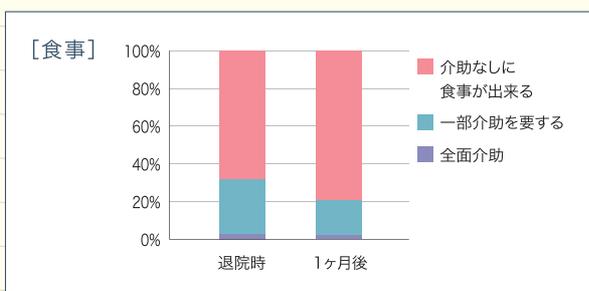
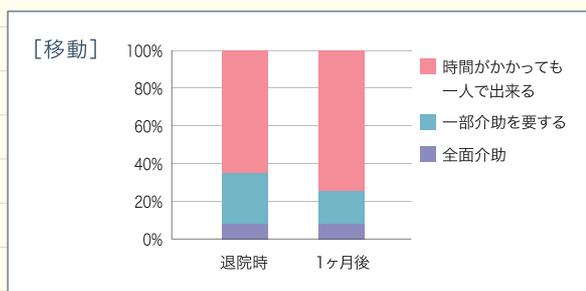
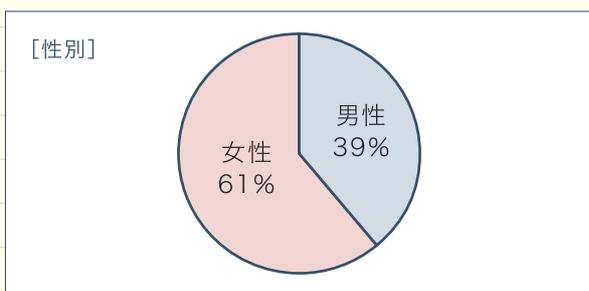
内容に関しては、毎年集計し、協力頂いた事業所へ結果を報告しています。介護サービス変更有無や追加サービスも確認しています。

当院では、介護保険サービスの通所リハビリ、訪問リハビリを運営しており、退院後の支援として活用しています。しかし、すべての方が当院のサービスを利用されるわけでないので、在宅事業所からの情報は貴重です。

集計結果から、1ヶ月後の状態として、一人で出来る事が少し増加しています。退院後の生活に在宅事業所がしっかり関わって頂いている結果と思います。今後も各事業所と連携し、支援を実施していきます。



〈2021年集計結果〉



五日市記念病院

連絡先(代表) TEL:082-924-2211 FAX:082-924-8111 e-mail:msw@seifu.net
(直通) TEL:082-924-2343 FAX:082-924-2215

廿日市記念病院

連絡先(代表) TEL:0829-20-2300 FAX:0829-20-2301 e-mail:msw@seifu.or.jp
(直通) FAX:0829-20-2777

診療担当 医師の ご紹介

五日市記念病院

脳神経外科
 理事長・院長 むかだ 向田一敏(昭和54年広島大学卒)
 副院長・診療部長・ちやき 科長 坪井俊之(平成9年宮崎大学卒)
脳卒中・血管内治療センター長 坂本繁幸(平成9年広島大学卒)
 技術部長 梶原洋介(平成13年広島大学卒)
 相談役(前理事長) 梶原四郎(昭和47年広島大学卒)
 大庭秀雄(平成24年広島大学卒)
 光原崇文(平成13年広島大学卒)*
 片桐匡弥(平成16年広島大学卒)*
 特別顧問 上山博康(昭和48年北海道大学卒)*

内科
 副院長・科長 土井謙司(昭和53年岡山大学卒)
 ドック科長 いんぐ 印 眞(昭和57年自治医科大学卒)
 黒木ゆり(昭和56年広島大学卒)
 藤田順子(昭和63年藤田医科大学卒)
 瀬山敏雄(昭和50年広島大学卒)*
 菊地由花(平成22年久留米大学卒)*

循環器内科
 科長 湯谷 剛(平成2年愛媛大学卒)
 総合診療科長 免出 朗(平成11年山梨大学卒)
 林 康彦(昭和47年広島大学卒)*

血液内科
 副院長・科長 許 泰一(昭和52年広島大学卒)

外科
 科長 亀田 彰(昭和55年広島大学卒)
消化器・内視鏡外科長 内田一徳(昭和62年大分大学卒)

整形外科
 平松廣夫(昭和47年広島大学卒)*
 岩崎洋一(昭和57年鹿児島大学卒)*

心臓血管外科
 古川智邦(平成14年広島大学卒)*

※印:非常勤医師
(2022(令和4)年8月1日現在)

廿日市記念病院

脳神経外科
 院長 浅野 拓(昭和48年岡山大学卒)
 副院長 茶木隆寛(昭和58年愛媛大学卒)
 相談役(前理事長) 梶原四郎(昭和47年広島大学卒)
 高柿尚始(平成14年広島大学卒)

外科
 吉屋智晴(平成14年広島大学卒)
 高橋 元(平成20年広島大学卒)

内科
緩和ケア病棟施設長 小原弘之(平成3年山口大学卒)
 益田智子(平成16年広島大学卒)*

循環器内科
 免出 朗(平成11年山梨大学卒)

呼吸器内科
 中川三沙(平成15年広島大学卒)*
 棚橋弘貴(平成25年広島大学卒)*

五日市記念病院 脳・血管ドックのご案内

ドックコース

- Ⓐ 脳ドック……………40,000円
- Ⓑ 簡易脳ドック………25,000円
- Ⓒ 血管ドック……………65,000円
- Ⓓ 簡易血管ドック…55,000円
- Ⓔ 脳+血管ドック…80,000円

オプション

- 肺癌検診(肺CT検査)……………8,000円
- 内臓脂肪測定(CTによる)……………2,000円

- 脳ドックは、毎週木・金曜日となります。
- 血管ドックは毎週木曜日に実施致します。
血管ドックには、肺癌検診(肺CT検査)が含まれます。
なお、複数回の来院が必要となります。

その他

- 大腸CT検診……………28,000円

社会医療法人 清風会

五日市記念病院

日本脳ドック学会認定施設

〒731-5156 広島市佐伯区倉重1-95

ドックについての
お申し込み・お問い合わせは

TEL

082-924-2211

検査項目	脳ドック		血管ドック		脳+血管ドック
	A	B	C	D	E
身長・体重・血圧・腹囲	○	○	○	○	○
視力	○	○	○	○	○
聴力	○		○		○
頭部MRI	○	○			○
頭部MRA	○	○			○
頸部MRA	○	○			○
冠動脈CTA			○	○	○
体幹部CT			○	○	○
体幹部CTA			○	○	○
血液検査・尿検査	○		○	△※	○
便潜血	○		○		○
心電図	○		○	○	○
胸部X線	○		○	○	○
骨密度測定	○		○		○
脈波図			○	○	○
眼底検査	○		○		○
頸動脈エコー	○	○	○	○	○
長谷川式簡易知能評価	○	○			○
内臓脂肪測定(CTによる)	○		○		○
肺癌検診(肺CT検査)			○	○	○

※△:採血によるクレアチニン検査のみ

五日市 記念病院 のご案内

一次脳卒中センター(PSC)[※]

脳神経外科を中心に 全身管理のできる急性期救急病院

所在地 広島市佐伯区倉重一丁目95 TEL:082-924-2211

診療科目 脳神経外科、内科、循環器内科、血液内科、消化器・内視鏡外科、整形外科、心臓血管外科、リハビリテーション科、脳ドック・血管ドック

総病床数 180床(急性期一般病床68床、SCU4床、地域包括ケア病床28床、回復期リハビリ病棟80床)

外来診療時間 午前9時～午後1時(受付時間:午前8時30分～午後12時30分)
午後2時30分～午後5時30分(受付時間:午後2時～午後5時)

休診日 土曜日午後・日曜日・祝日、8月15日、年末年始(12/29午後、12/30～1/3、1/4午後)
但し、12/31～1/3までは年末年始定点診療を実施

最新の
外来受診の
ご案内は
こちらから



● 外来診療スケジュール並びに担当医師

(2022(令和4)年8月1日現在)

	月曜		火曜		水曜		木曜		金曜		土曜
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前
脳神経外科	初診	大庭	坪井		交替制		梶原(洋)		坂本		第1片桐 ^{※1} 第2・4・5光原 第3交替制
	再診	坪井 梶原(洋)		向田 梶原(洋)		茶木 梶原(四)		向田 坂本	向田 梶原(四) ^{※2}	第1・3 光原	大庭 第2・4・5梶原(四)
内科	印具 藤田	黒木 ^{※3} 土井	黒木 印具	藤田	土井 印具	黒木	菊地 土井	藤田	黒木 藤田	印具	瀬山 交替制
循環器内科	湯谷		湯谷 林		免出		免出		湯谷		交替制
血液内科	許		許		許		許		許		許
消化器・ 内視鏡外科		内田 ^{※4}						内田			
整形外科						平松					
心臓血管外科								第3古川			
脳ドック			印具			梶原(四) 印具	検査日		検査日		
血管ドック			林 印具				検査日				

※1 第1土曜日午前、片桐は機能脳外科外来を行っています。 ※2 第3土曜日前日の金曜は休診です。

※3 月曜日午後、黒木にて癒し外来を行っています。 ※4 胆石・ヘルニア外来を行っています。

脳神経外科初診外来



アクセス

自家用車

来院者用駐車場141台(無料)
JR五日市駅より10分

公共交通機関

- JR五日市駅北口よりバス
(薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き)
地毛(じげ)バス停下車、徒歩5分
- 広島電鉄楽々園駅よりバス(湯来温泉行き)
地毛(じげ)バス停下車、徒歩5分
- 広島バスセンターよりバス
(東観音台、薬師が丘、彩が丘団地、藤の木団地行き)
地毛(じげ)バス停下車、徒歩5分
- 広島バスセンターよりバス(四季が丘、阿品台行き)
波出石(はでいし)バス停下車、徒歩3分

※五日市記念病院は、2019(令和元)年9月1日、
日本脳卒中学会より、「一次脳卒中センター
(PSC)」の認定を受けました。



廿日市 記念病院 のご案内

心を重視したホスピスと 総合リハビリテーション病院

所在地 廿日市市陽光台五丁目12 TEL:0829-20-2300

診療科目 脳神経外科、内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、リハビリテーション科

総病床数 126床(回復期リハビリ病棟60床、療養病棟42床、緩和ケア病棟24床)

外来診療時間 午前9時～午後1時(受付時間:午前8時30分～午後12時30分)

最新の
外来受診の
スケジュールは
こちらから



休診日 土曜日・日曜日・祝日、8月15日、年末年始(12/30～1/3)

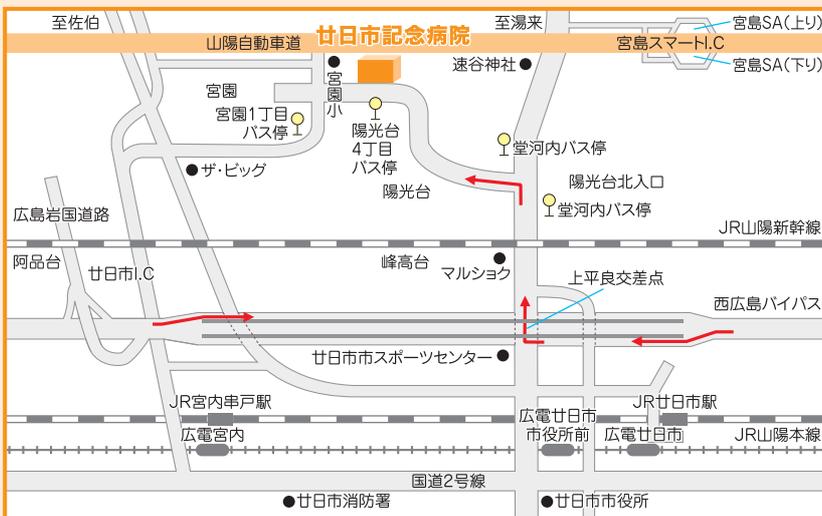
● 外来診療スケジュール並びに担当医師

(2022(令和4)年5月19日現在)

		月曜	火曜	水曜	木曜	金曜
午前	脳神経外科	茶 木 梶 原	浅 野	浅 野	茶 木 梶 原※1	浅 野
	内 科		益 田	小 原	小 原	
	循環器内科		免 出※2			
	呼吸器内科	中 川				棚 橋
	外 科				高 橋	
午後	緩和ケア※3	交替制※4	小 原	交替制※4	交替制※4	小 原

※1 第3土曜日の前々日木曜日は休診となります。 ※2 火曜日の循環器内科の診療は、10時からとなります。

※3 緩和ケア外来は完全予約制で、緩和ケア病棟入院の為の診療を行っています。 ※4 担当医は交替制です。



アクセス

自家用車

来院者用駐車場62台(無料)
JR宮内串戸駅または広電宮内駅より10分

公共交通機関

- JR宮内串戸駅または広電宮内駅よりバスで宮園1丁目バス停下車、徒歩4分(宮園、四季が丘行き)
- 広電廿日市市役所前駅よりバスで堂河内バス停下車、徒歩5分(原、川末行き)
- 広電廿日市市役所前駅よりさくらバス(西循環)で陽光台4丁目バス停下車すぐ

法人の理念

私たちは『医療は仁術』であり、
『病院はサービス業』であることを忘れず、
『社会に望まれる医療』の実現を目指して、
より良質で、温かく心の通った医療を提供します。

- 私たちは、患者さまを守ります
- 私たちは、思いやりを大切にします
- 私たちは、誠実な医療を目指します
- 患者さまには人格の尊重を、
病気に対しては厳しい目をもって
より良い医療を目指します

年間行事

2022(令和4)年1月～2022(令和4)年7月

1月	1～3日	佐伯区医師会 定点診療(広島市年末年始救急医療協力病院・五日市記念病院)
2月	1日	電子カルテ更新
4月	1日	社会医療法人 清風会 入職式 五日市記念病院 SCU(脳卒中ケアユニット)運用開始 五日市記念病院 脳卒中・血管内治療センター設置
	1～3日	新入職員導入研修
	15日	期末賞与 支給
	22日	外国人技能実習生 第2期生・3期生受け入れ
	25日	新型コロナウイルス感染予防対策見舞金支給
6月	1日	廿日市記念病院 開院記念日
7月	1日	清風会 開設記念日 五日市記念病院 開院記念日
	15日	夏季賞与 支給
	20～21日	五日市記念病院 病院機能評価受審 一般病院1<3rdG:Ver.2.0>

編集後記

コロナ過によって、外食・旅行・学校行事など当たり前に出ていたものが、今は多くの事が制約されております。昔より便利になった世の中ですが、逆に暮らしにくくなった部分もあり、普通に暮らす事がいかにありがたいか痛切に感じております。普通に暮らせることに日々感謝したいと思います。

(管理本部 渉外部門 塚本 修久)

延期となっていた30周年記念動画の撮影を終え、何とか無事に完成することが出来ました。

電子カルテの更新や病院機能評価の受審などで大変な毎日でしたが、たくさんの職員の協力によりスムーズに撮影が出来たことに感謝します。ありがとうございました。

(五日市記念病院 庶務課 藤岡 恵美)

上半期も電子カルテの更新があり目まぐるしい毎日でした。暑い日が続きますが、少しでも涼やかな気分になれるよう法人だよりお届けします。

皆さまもくれぐれも体調に気をつけてお過ごしください。

(廿日市記念病院 庶務課 井上 仁)

社会医療法人
清風会

第69号 2022年8月1日

管理本部

〒731-5156
広島市佐伯区倉重1丁目95
TEL (082)943-7725
FAX (082)921-0104
URL <https://www.seifu.or.jp>
E-mail kannri@seifu.net



五日市記念病院

TEL (082)924-2211
FAX (082)924-8111
URL <https://www.seifu.or.jp/imh/>
E-mail imh@seifu.net



廿日市記念病院

TEL (0829)20-2300
FAX (0829)20-2301
URL <https://www.seifu.or.jp/hmh/>
E-mail hmh@seifu.or.jp

